

The 188th Kanto Regional Meeting of
Japanese Society of Oral and Maxillofacial Surgeons

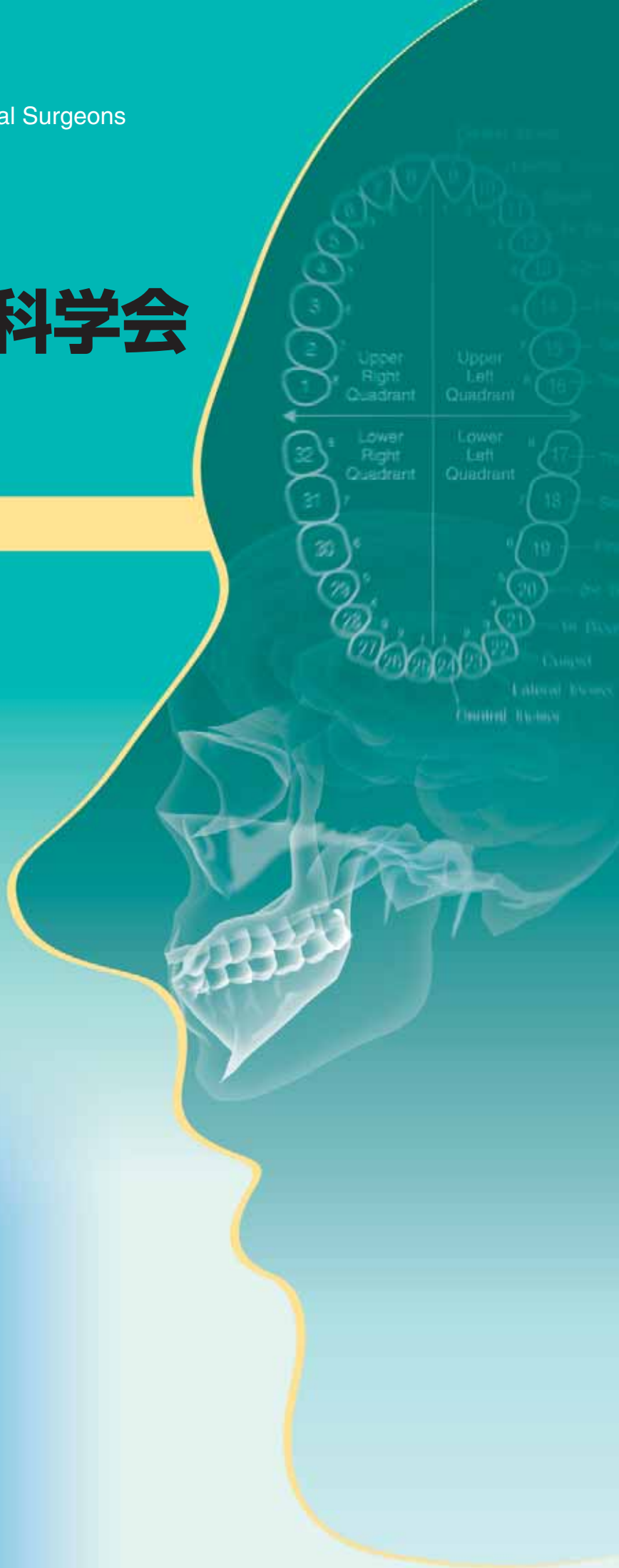
第188回 (社)日本口腔外科学会 関東地方会

プログラム・抄録集

日時 ◆ 2009年12月26日(土)

会場 ◆ 東京慈恵会医科大学
大学1号館3階 講堂

会長 ◆ 杉崎 正志
東京慈恵会医科大学 歯科



The 188th Kanto Regional Meeting of
Japanese Society of Oral and Maxillofacial Surgeons

第188回 (社)日本口腔外科学会 関東地方会

プログラム・抄録集

日時 ◆ 2009年**12月26日** 土

会場 ◆ **東京慈恵会医科大学**
大学1号館3階 講堂

会長 ◆ **杉崎 正志**
東京慈恵会医科大学 歯科

事務局

東京慈恵会医科大学 歯科

準備委員長：林 勝彦 事務担当：大高 幸恵

〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8

TEL: 03-3433-1111(内線3641) FAX: 03-3431-5449

E-mail: chihoukai188@jikei.ac.jp

お知らせ

① 会費

会費：1,000円 受付は、8時より会場入り口前で行います。

② 演者の方へ

1) 発表形式について

- 発表時間：6分、質疑応答：2分です。学会発表の進行上、時間厳守をお願いいたします。
- 発表はPC プロジェクター(Windows XP, Power Point 2003)による口演発表(単写)に限らせていただきます。動画は、作動確認がとれていないため、使用はお控えください。
- 当日、パソコンの持ち込みは不可とさせていただきます。発表データは、ファイル名を演題番号 + 発表者名(例:1 慈恵太郎.ppt)とし、データ記録媒体(USB メモリースティックかCD-R)に保存してお持ちください。また、必ずバックアップデータをご用意ください。
- 各自で、データを作成したパソコン以外での正常な作動を予めご確認ください。
- 発表の1時間前までにデータ記録媒体をPC 受付にご提出ください。

2) 事後抄録について

- PC 受付にて、発表データとともに事後抄録(プリント原稿とデータファイル)を、ご提出ください。
- プリントはA4用紙横書き1枚とし、演題番号、演題名、所属機関名、演者名(発表者に○)、内容抄録を400字以内で記載し、最後に連絡先(郵便番号、住所、電話、FAX、e-mail アドレス)を明記してください。
- データは、MS Word で入力しファイル名を演題番号 + 発表者名(例:1 慈恵太郎.doc)とし、データ記録媒体に保存してお持ちください。発表データご提出時にお預かりします。

記録媒体は、当日返却いたします。忘れずにお持ち帰りください。

③ 座長の方へ

- 座長受付を担当セッション30分前までにお済ませください。
- 担当セッション開始10分前までに次座長席へご着席ください。
- 進行は、時間厳守をお願いいたします。

④ 質疑応答される方へ

ご発言は、すべて座長の指示に従い、所属機関名・氏名を述べてから簡潔に行ってください。

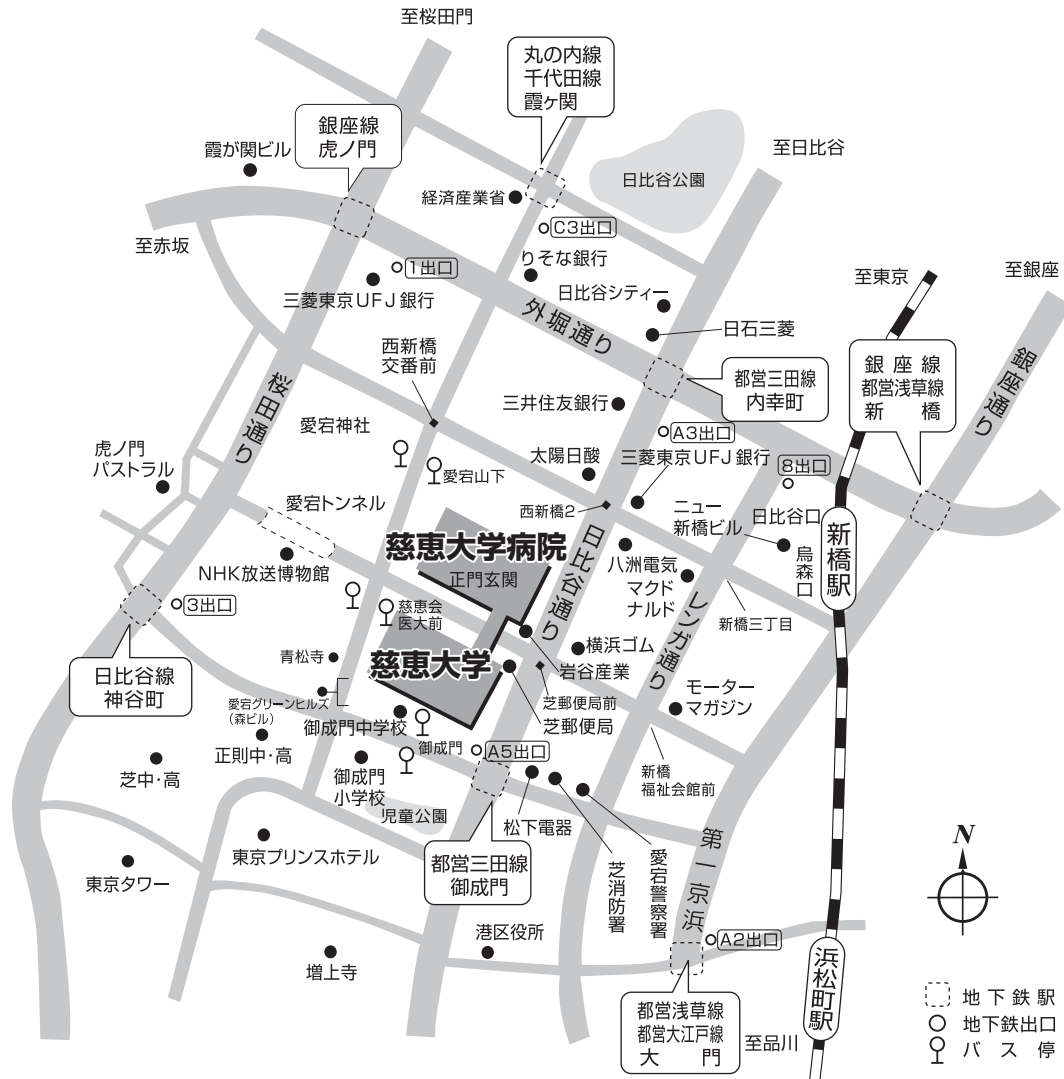
⑤ 評議員の先生へ

昼休みに評議員会を開催いたしますので、ご出席くださいますようお願いいたします。

B 会議室まで係の者が、ご案内しますので、会場内でお待ちください。

開催時間：12:30～13:20 会場：高木会館 5階 B 会議室

交通アクセス



会場までのアクセス

■ 地下鉄

● 都営三田線

- 「御成門」下車(A5 出口) 徒歩約3分
- 「内幸町」下車(A3 出口) 徒歩約10分

● 日比谷線

- 「神谷町」下車(3 出口) 徒歩約7分

● 銀座線

- 「虎ノ門」下車(1 出口) 徒歩約10分

● 銀座線・都営浅草線

- 「新橋」下車(8 出口) 徒歩約12分

● 都営浅草線・都営大江戸線

- 「大門」下車(A2 出口) 徒歩約13分

● 丸の内線・千代田線

- 「霞ヶ関」下車(C3 出口) 徒歩約13分

■ JR 新橋駅下車 徒歩12分

浜松町駅下車 徒歩15分

■ バス(交通事情により所要時間が異なることがあります)

- 都営バス/東98系統(東急バスと共同運行)
東京駅丸の内南口 → (目黒駅経由) → 等々力操車所前 → 「慈恵会医大前」または「愛宕山下」下車

※東京駅丸の内南口バス乗り場(5番)より約20分

※1時間に3~4本程度、運行しています

※慈恵大学病院中央棟前、愛宕下通りにバス停があります

プログラム

開会の挨拶 9:00～9:05 会長 杉崎 正志

1 良性腫瘍・嚢胞Ⅰ 9:05～9:45

座長：近藤 壽郎

01 上唇に発生した神経鞘腫の一例

○齊藤 元泰、伊介 昭弘、林 勝彦、前田佐知子、杉崎 正志
東京慈恵会医科大学 歯科

02 左側オトガイ部に生じた類上皮血管腫の1例

○榎木祐一郎¹⁾、福島 洋介¹⁾、山口 浩²⁾、清水 禎彦²⁾、中本 文¹⁾、
佐藤 毅¹⁾、坂田 康彰¹⁾、都丸 泰寿¹⁾、依田 哲也¹⁾

1) 埼玉医科大学医学部 口腔外科学教室、2) 埼玉医科大学 国際医療センター 病理診断学教室

03 梱包療法を繰り返した舌の巨大血管腫の1例

○上野 泰宏¹⁾、中山 竜司²⁾、山下 雅子¹⁾、伊藤 弘人¹⁾、神部 芳則¹⁾、
草間 幹夫¹⁾

1) 自治医科大学 歯科口腔外科学講座、2) 国際医療福祉大学病院 歯科口腔外科

04 巨大な舌下型類皮嚢胞の一例

○野上 以織、豊島 貴彦、栗原 祐史、佐藤 華、代田 達夫、新谷 悟
昭和大学歯学部 顎口腔疾患制御外科学教室

05 下顎骨嚢胞により知覚鈍麻を生じた3例

○岩井 聡¹⁾³⁾、伊藤 耕¹⁾³⁾、戸邊真希子¹⁾³⁾、阿久津美和¹⁾³⁾、武田 祥人¹⁾、
石上 大輔¹⁾、神野 良一¹⁾³⁾、片桐 健史¹⁾³⁾、河島 睦¹⁾³⁾、高橋 康輔¹⁾³⁾、
宇都宮忠彦²⁾³⁾、山本 浩嗣²⁾³⁾、近藤 壽郎¹⁾³⁾

1) 日本大学松戸歯学部 顎顔面外科学講座、2) 日本大学松戸歯学部 病理学講座、
3) 日本大学松戸歯学部 口腔科学研究所

2 炎症Ⅰ 9:45～10:25

座長：金子 明寛

06 入院加療を要した重症歯性感染症患者の臨床的検討

○金井 直樹、青木 隆幸、坂本 由紀、佐藤 祐介、倉林 宏考、佐々木剛史、
伊澤 和三、山崎 浩史、青山 謙一、太田 嘉英、金子 明寛
東海大学医学部 外科学系口腔外科

07 平成20年1年間に入院加療を行った歯性感染症の検討

○福江 亮介、田畑 慎也、夫馬 吉啓、桃木裕美子、熊坂 士、守田 誠吾、
岡本 俊宏、安藤 智博
東京女子医科大学医学部 歯科口腔外科学教室

08 炎症が反対側の側頭筋隙に進展した下顎智歯抜歯窩治癒不全患者の1例

○玉田 八束、毒島 保信、松崎 英雄、右田 雅士

東京都立墨東病院 歯科口腔外科

09 口腔底蜂窩織炎の治療に苦慮した血液透析患者の一例

○塩見 周平、岡本 聡太、渡部 幸央、工藤 智也、吉野 正裕、右田 雅士、
村松恭太郎、鈴木 康之、重松 司朗、木住野義信、福本 裕、大畠 仁

東京都立府中病院 歯科口腔外科

10 腺性口唇炎の2例

○根本 美紀¹⁾、柳川 徹¹⁾、山縣 憲司¹⁾、鬼澤浩司朗¹⁾、野口 雅之²⁾、
山口 朗³⁾、武川 寛樹¹⁾

1) 筑波大学 臨床医学系 歯科口腔外科、2) 筑波大学 基礎医学系 診断病理、

3) 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 口腔機能再構築学系専攻 口腔機能再建学講座 口腔病理学

3 悪性腫瘍 I 10:25~11:05

座長：天笠 光雄

11 疣贅性癌の細胞診所見に関する検討 —乳頭状扁平上皮癌との比較—

○羽田 有沙¹⁾、佐藤 一道²⁾、山内 智博²⁾、山科 光正¹⁾、外木 守雄¹⁾、
山根 源之¹⁾²⁾、宜保 一夫³⁾、才藤 純一³⁾、田中 陽一³⁾

1) 東京歯科大学 オーラルメディシン・口腔外科学講座、2) 東京歯科大学 口腔がんセンター、

3) 東京歯科大学市川総合病院 臨床検査科

12 術後に重度摂食・嚥下障害が予想される口腔がん患者に対する当院の対応について

○枝広あや子¹⁾、三條 裕介¹⁾、會田 貴久¹⁾、酒井 克彦¹⁾、矢崎 涼子¹⁾、
栗山 智宏¹⁾、佐藤 一道²⁾、渡邊 裕¹⁾、山内 智博²⁾、外木 守雄¹⁾、
山根 源之¹⁾²⁾

1) 東京歯科大学 オーラルメディシン・口腔外科学講座、2) 東京歯科大学 口腔がんセンター

13 再発頬粘膜癌切除後の広範な欠損に DP 皮弁と腹直筋皮弁による再建を行った一例

○黒原 一人、道 泰之、大山 巖雄、鈴木 美保、中村恵理奈、中田 好美、
渡辺 高、香月 佑子、鶴澤 成一、山城 正司、天笠 光雄

東京医科歯科大学 顎顔面外科

14 NBI システム搭載拡大内視鏡により発見された口腔癌の1例

○関根 理予¹⁾、薬師寺 孝¹⁾、菅原 圭亮¹⁾、野村 武史¹⁾、高野 伸夫¹⁾、
柴原 孝彦¹⁾、片倉 朗²⁾

1) 東京歯科大学 口腔外科学講座、2) 東京歯科大学 口腔健康科学講座 口腔外科分野

15 広頸筋皮弁と頸部島状皮弁の口腔再建における適応と問題点

○中曾根良樹¹⁾、横尾 聡¹⁾、宮久保満之¹⁾、笹岡 邦典¹⁾、根岸 明秀¹⁾、
工藤 毅²⁾、古土井春吾³⁾、古森 孝英³⁾

1) 群馬大学大学院 医学系研究科 顎口腔科学分野、

2) 群馬大学大学院 医学系研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野、

3) 神戸大学大学院 医学研究科 口腔外科学分野

認定医セミナー抄録

〔 臨床統計で reject されないために 〕

杉崎 正志 東京慈恵会医科大学 歯科



【略 歴】

昭和48年3月

東京歯科大学卒業

昭和54年4月

東京歯科大学口腔外科学第2講座講師

昭和56年1月

東京慈恵会医科大学歯科学教室講師

平成14年7月

東京慈恵会医科大学歯科学教室教授

【学会活動】

日本顎頭蓋機能学会 理事

一般社団法人日本顎関節学会 常任理事

日本歯科薬物療法学会 理事

日本睡眠歯科学会 監事

日本口腔外科学会 指導医、専門医

日本顎関節学会 指導医、専門医

学術雑誌の査読やレフリーを依頼されていると、多くに統計学上の問題がみつかる。統計を間違えると結果が異なり、結論を間違えてしまう。また統計以前に研究計画の問題も含んでいる。統計を短時間で理解することは困難ではあるが、問題となる部分を明らかにしていけば、その対応は可能である。今回の内容は下記に示すが、その詳細は各自の勉強が求められる。いずれにせよ、統計は必要に迫られないと勉強しない。この必要性とは学会場で質問されることである。

内容

- (1) 研究にはなぜ統計が必要か？
- (2) Uniform requirements for submitted for biomedical journalsの統計の統一規定
- (3) アウトカムとエンドポイント
- (4) 評価の統一、マスキング、サンプルサイズなど統計の前に必要な計画
- (5) 統計解析法選択の指標
- (6) データの総括法
- (7) 標本と母集団
- (8) 有意水準
- (9) 同等性の証明
- (10) 間違いやすい統計
 - ① ノンパラメトリックとパラメトリック
 - ② 標準偏差と標準誤差、代表値とは
 - ③ 多重比較
 - ④ 連続数と順位
 - ⑤ 因子分析と主成分分析
 - ⑥ 単変量分析と多変量分析
- (11) いろんな統計法
- (12) 結果の記載
- (13) 考察の記載

抄 録

01 上唇に発生した神経鞘腫の一例

東京慈恵会医科大学 歯科

○齊藤 元泰、伊介 昭弘、林 勝彦、前田佐知子、杉崎 正志

【緒言】 神経鞘腫はシュワン細胞の増殖からなる良性腫瘍で、舌に好発するほか口蓋、口底、頬粘膜、口唇にもみられる。まれに下顎神経より生じ、顎骨内にも発生する。今回私たちは上唇に発生した神経鞘腫を経験したので報告する。

【症例】 患者：59歳 女性 既往歴：変形性膝関節症 主訴：左上唇部腫瘍の精査、加療目的 初診日：2008年5月26日 初診時所見：左上唇粘膜面に10×5mm大、弾性硬、正常粘膜色、可動性の腫瘍を認めた。疼痛、圧痛は認めなかった。現病歴：2ヶ月前に腫瘍を

自覚、かかりつけ歯科医院にて上唇部腫瘍の経過観察中だったが、精査目的に当院紹介来科となった。

【画像診断】 左側上唇皮下に径約10mm×5mmの辺縁平滑な類球形の腫瘍を認めた。T1強調画像では低信号、T2強調画像では強い高信号を呈していた。血管腫、脂肪腫、線維腫、小唾液腺由来の腫瘍等が鑑別に考えられた。

【処置】 2008年8月切除術施

【病理診断】 神経鞘腫

02 左側オトガイ部に生じた類上皮血管腫の1例

1) 埼玉医科大学医学部 口腔外科学教室、2) 埼玉医科大学 国際医療センター 病理診断学教室

○榎木祐一郎¹⁾、福島 洋介¹⁾、山口 浩²⁾、清水 禎彦²⁾、中本 文¹⁾、佐藤 毅¹⁾、坂田 康彰¹⁾、都丸 泰寿¹⁾、依田 哲也¹⁾

類上皮血管腫 Epithelioid hemangioma (EH) は、硝子変性の強い多数の血管からなるまれな良性の血管腫瘍である。今回われわれは、左側オトガイ部に生じたEHの1例を経験したので報告する。症例は50歳女性で、左側オトガイ部の腫脹を主訴に受診した。初診時、左側オトガイ部に直径15mm大で半球状、無痛性で弾性軟の腫瘍を認めた。CT所見では筋組織と同等の均一な信号強度を呈し、下顎骨と密接し境界は明瞭で、骨破壊は認めなかった。MR所見ではT1およびT2強調像で低信号を呈した。左側オトガイ部良性

腫瘍と診断し、全身麻酔下にて腫瘍摘出術を施行した。腫瘍は充実性で白色を呈し、周囲との境界は明瞭で容易に剥離可能であった。病理組織的所見で増殖した小血管の内皮細胞は腫大し上皮様を呈し、形質細胞やリンパ球などの浸潤性増殖を認めEHと診断した。

03 梱包療法を繰り返した舌の巨大血管腫の1例

1) 自治医科大学 歯科口腔外科学講座、2) 国際医療福祉大学病院 歯科口腔外科

○上野 泰宏¹⁾、中山 竜司²⁾、山下 雅子¹⁾、伊藤 弘人¹⁾、神部 芳則¹⁾、草間 幹夫¹⁾

患者は37歳女性。主訴は舌のできもの。

【現病歴】 3歳時、交通事故にてダッシュボードに顔を強打。その後舌の腫瘍が増大するも放置。約33年経過後、2008年9月歯科治療目的に近歯科医院受診。同医院の紹介により精査目的に2008年10月、国際医療福祉大学病院歯科口腔外科初診。血管腫の診断にて加療目的に自治医科大学病院歯科口腔外科に紹介受診。

【現症】 舌尖から舌背にかけて鶏卵大の暗赤色の巨大な腫瘍を認めた。

【臨床診断】 舌血管腫。

【MRI 撮像】 舌尖端部にT2強調像で高信号を示す著明な腫瘍性病変を認め、腫瘍中心部に石灰化を示す像を呈したことから血管腫と診断。2009年1月13日全身麻酔下に気管切開術を施行、舌梱包療法を施行した。術後著明な縮小を認めたが、術後3ヶ月頃腫瘍の残存を認めたため、2009年7月29日、国際医療福祉大学病院歯科口腔外科にて再度全身麻酔下に舌梱包療法施行。現在舌の変形は軽度で、発語、嚥下とも良好である。

04 巨大な舌下型類皮嚢胞の一例

昭和大学歯学部 顎口腔疾患制御外科学教室

○野上 以織、豊島 貴彦、栗原 祐史、佐藤 華、代田 達夫、新谷 悟

口腔領域に発生する類皮嚢胞は口底部正中に好発するが、長径50mmを超える大きさはまれである。今回我々は、無痛性に増大した50mmを超える舌下型類皮嚢胞の症例を経験したので報告する。

【症例】29歳、女性。

【主訴】口底部腫脹。

【既往歴・家族歴】特記事項無し。

【現病歴】2009年5月近歯科医院受診した際、口底部腫脹を指摘され、他大学病院より精査加療目的に当科紹介され、来院した。

【現症】口底部に無痛性、弾性軟の膨隆を認めた。嚥下、発音、舌運動障害は認めなかったが、就寝時の違和感を覚えていた。MRI・T2強調画像において辺縁部分に強い高信号、内部に不均一な低信号を示す50×30×30mm大の類円形、境界明瞭な病変を認めた。

【処置および経過】全身麻酔下口内法による摘出術を施行した。術後2ヶ月現在、経過良好である。

05 下顎骨嚢胞により知覚鈍麻を生じた3例

1) 日本大学松戸歯学部 顎顔面外科学講座、2) 日本大学松戸歯学部 病理学講座、

3) 日本大学松戸歯学部 口腔科学研究所

○岩井 聡¹⁾³⁾、伊藤 耕¹⁾³⁾、戸邊真希子¹⁾³⁾、阿久津美和¹⁾³⁾、武田 祥人¹⁾、石上 大輔¹⁾、
神野 良一¹⁾³⁾、片桐 健史¹⁾³⁾、河島 睦¹⁾³⁾、高橋 康輔¹⁾³⁾、宇都宮忠彦²⁾³⁾、山本 浩嗣²⁾³⁾、
近藤 壽郎¹⁾³⁾

下顎骨嚢胞により神経症状が出現することはまれである。今回われわれは下顎管に近接して拡大した下顎骨嚢胞が存在し、下歯槽神経知覚鈍麻を認めた3例を経験した。

【症例1】44歳男性、主訴は下顎左側臼歯部の違和感と下唇の痺れ。

画像所見では「6」根尖部に下顎管と近接する境界明瞭な透過像を認めた。処置として摘出術を施行した。

【症例2】52歳男性、主訴は下顎左側臼歯部の疼痛お

よび左側オトガイ部皮膚の痺れ。画像所見では「7」根尖部に下顎管と近接する境界明瞭な透過像を認め、処置として生検をかねた開窓療法を施行した。

【症例3】48歳男性、主訴は左下唇の痺れ。画像所見では「8」に下顎管と近接する境界明瞭な透過像を認め、処置として生検をかねた開窓療法を施行した。すべての症例で処置後に知覚鈍麻は消失した。本発表では知覚鈍麻を伴う下顎骨嚢胞について若干の考察を加えて報告する。

06 入院加療を要した重症菌性感染症患者の臨床的検討

東海大学医学部 外科学系口腔外科

○金井 直樹、青木 隆幸、坂本 由紀、佐藤 祐介、倉林 宏考、佐々木剛史、伊澤 和三、
山崎 浩史、青山 謙一、太田 嘉英、金子 明寛

菌性感染症は、重篤化すると咀嚼、嚥下障害や気道狭窄を引き起こすこともあり時に入院加療を要することも多い。今回われわれは、入院加療を要した重症菌性感染症患者について検討を行ったので報告する。

対象は、1999年から10年間に東海大学医学部付属病院口腔外科にて入院加療を要した菌性感染症患者とした。検討項目は年齢、性別、基礎疾患、発症部位、入院期間、治療方法、検出菌および使用した抗菌薬の種類、投与期間などとした。

入院患者は、気道狭窄が危惧され、全身麻酔下で緊急

手術が行われた症例が含まれていた。これらの症例からの検出菌は嫌気性菌の関与する比率が高く、感染形態は複数菌感染が多かった。主たる検出菌の *Prevotella* 属では、 β -ラクタマーゼ産生菌種が多く認められた。

協 賛

アグサジャパン株式会社
株式会社 一色歯科商店
有限会社 ウェイブリングス
エーザイ株式会社
クインテッセンス出版株式会社
第一三共株式会社
タキロン株式会社
ティーアンドケー株式会社
日鉱工業株式会社
ニプロ株式会社
ノバルティス ファーマ株式会社
株式会社 ハセガワメディカル
ファイザー株式会社
明治製菓株式会社
株式会社ヨシダ

(50音順、敬称略)

第 188 回日本口腔外科学会関東地方会

会 長：杉崎 正志

事務局：東京慈恵会医科大学歯科

〒105-8461 東京都港区西新橋 3-25-8

TEL：03-3433-1111 内線 3641 FAX：03-3431-5449

出 版： 株式会社セカンド
学会サポート <http://www.secand.com/>

〒862-0950 熊本市水前寺 4-39-11 ヤマウチビル 1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025